

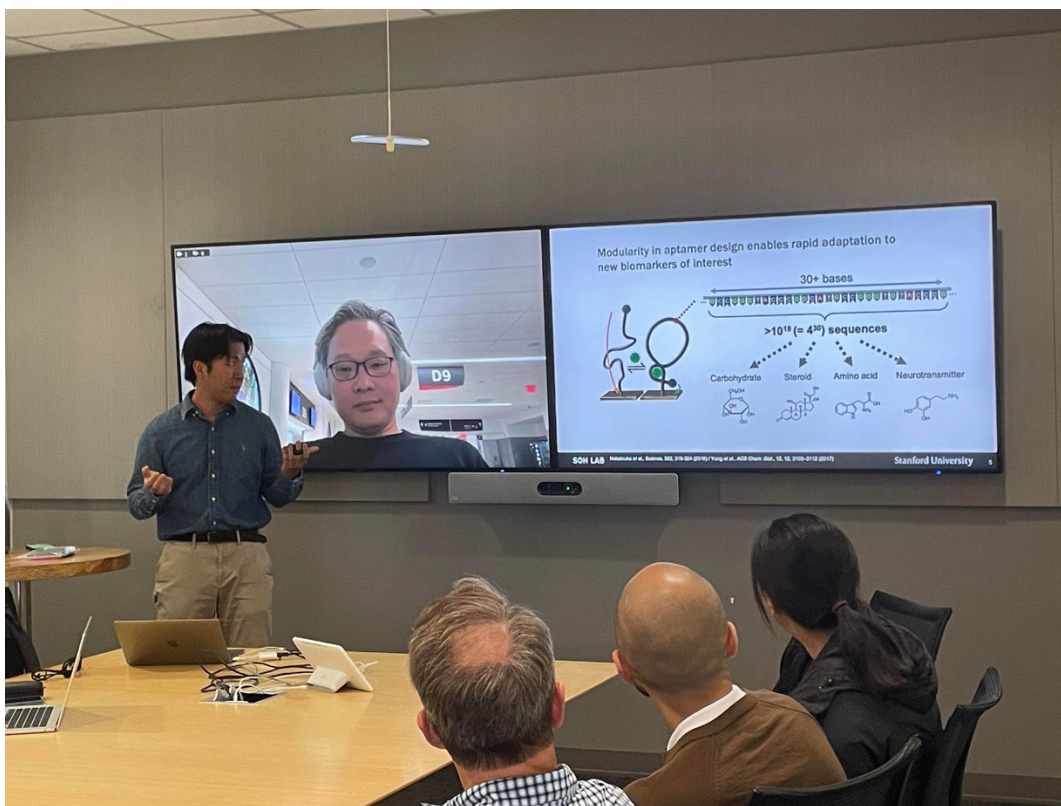
## 船井情報科学振興財団 第5回報告書

藤田 創 | Hajime Fujita

Ph.D. candidate, Department of Bioengineering, Stanford University

### Qualifying Exam

無事に Qualifying Exam を通過し、Ph.D. candidate になりました。研究室内外の仲間に沢山フィードバックをもらって、良い試験準備が出来たと思います。準備の過程で、自分の研究分野について理解が足りていない部分や、これからやりたいことについてじっくり考える良い機会でした。研究室には工学系出身の学生・ポスドクが多いですが、試験で審査してくださった先生方は生物学・基礎医学寄りの人たちでした。普段研究室では得られない角度からのフィードバックをいただくことが出来てとても良かったです。



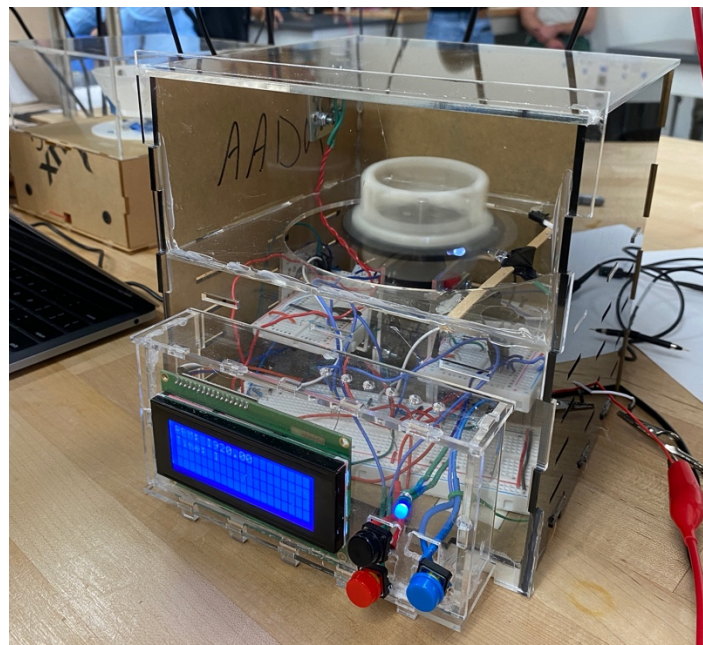
Qualifying Exam の様子(冒頭のプレゼンテーションは一般公開でした)

## 授業

春学期は、有機化合物などの構造解析に使われる核磁気共鳴分光法についての授業を受講しています。研究で扱っている生体高分子の構造解析に活用できたら良いなと思っています。

## ティーチングアシスタント(TA)

冬学期に開講される Biomedical System Prototyping Lab の TA を担当しました。遠心分離機を一から作る講義で、10週間で電子回路、各種加工技術、マイコン制御などの知識を習得して、最後にオリジナルの遠心分離機を製作します。Bioengineering 専攻の学部3年生ほぼ全員が受講する授業で、活気に溢れていました。発表会の直前になると多くの学生は徹夜でデバッグに取り組むようになり、そのモチベーションにただただ驚かされました。最後の発表会では、各学生が思い思いの遠心分離機のデモを披露し、学内外から色んな人たちが成果を見に集まっていました。



面倒を見ていた学生さんたちが作った遠心分離機

## 研究について

この一年ほどで取り組んできたアプタマー(目的の生体分子に特異的に結合する核酸)についての研究成果を論文にまとめ始めています。それと同時に、これから残りの Ph.D.課程の期間で取り組む研究テーマについて、指導教員やメンターと議論しています。研究領域の広大さに圧倒され、自分の実力不足に悩む日々ですが、自分がワクワクできることをじっくり探し出せるようにベストを尽くしたいと思います。

6月末にアメリカ東海岸で開催されるバイオセンサの学会に参加して、直近のアプタマーの研究成果を報告する予定です。久しぶりの学会発表で、学外の人から沢山フィードバックをいただけることを楽しみにしています。

## 日常生活

最近毎日プールで泳ぐようになりました。初心者なので、毎回気付きがあって面白いです。これから長い距離を泳げるようになって、Stanfordの Masters Swimming Teamに入れるように頑張りたいと思います。自炊と合わせて健康管理に努めたいと思います。



最近のごはん